

1 風の人(来訪者)が見た「竜串」(来訪者アンケート調査結果)

竜串を見つめる2つの目

「竜串」での自然再生、地域再生の活動には多様な主体の参画と連携が求められています。

近年、地域づくり活動などにおいては、そこに住んでいる人々を「土の人」と呼び、外から訪れる人を「風の人」と呼んでいます。



土の人は地域づくり活動の主役となって、主体的に活動に関わっていくわけなのですが、その地域にずっと生活しているがゆえに、地域の独自性（オリジナリティ）や良さ（地域資源）を日常生活のなかで当たり前と思いついて、気がつかないこともあります。

そんな時、地域を訪れる旅人＝風の人があることを教え、土の人の気づきのきっかけを与えることがしばしばあります。また、風の人は地域に新たな情報や刺激をもたらしてくれることもあります。

つまり、自然再生が求める「多様な主体の参画と連携」には、土の人と風の人とが協働することも大切なことといえるでしょう。

そこで、「竜串」で自然再生を進めるために、地域社会調査では、まず両者の「竜串」への想いを抽出することからはじめることにしました。

土佐清水市には、年間70万人を超す観光客が訪れています。なかでも、竜串は土佐清水市において足摺岬とならぶ有名な観光地です。

そこで、「竜串」における自然再生事業では、この地域外から訪れる人々（観光客）＝風の人とも再生の重要な主体と考えています。

風の人には「竜串」の自然（サンゴ）再生をどのように見ているのでしょうか。

そこで、風の人（来訪者）の意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。

本アンケートでは、おもに土佐清水市竜串地区および幡多地域への来訪者を対象にし、竜串を訪れたおもな目的や竜串の魅力、やってみたい（楽しかった）自然体験活動などを聞く質問を設けました。

【アンケートの概要】

- 調査の目的：竜串地区の印象や利用者としてのニーズなどを把握する。
- 調査の対象：土佐清水市および幡多地域への来訪者
- 調査の方法：観光施設および宿泊施設等への留置法（一部直接配布）
- 調査の期間：2004（平成16）年8月31日～10月31日
- 回収数：772部



風を人の声を聞く (来訪者アンケート調査結果)



ポスターを見る

アンケート調査結果を見る

アンケート調査票を見る



来訪者アンケート調査結果

(1) 回答者属性

アンケート回答者の属性を表1(1)・(2)に示します。

表1(1) 回答者属性(年齢・性別)

	年代								計
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	
男性	7 (2.2%)	45 (14.1%)	61 (19.1%)	35 (10.9%)	68 (21.3%)	78 (24.4%)	25 (7.8%)	1 (0.3%)	320 (100.0%)
女性	18 (4.1%)	87 (19.9%)	103 (23.6%)	68 (15.6%)	74 (16.9%)	69 (15.8%)	16 (3.7%)	2 (0.5%)	437 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	13 (86.7%)	15 (100.0%)
計	25 (3.2%)	132 (17.1%)	165 (21.4%)	103 (13.3%)	142 (18.4%)	147 (19.0%)	42 (5.4%)	16 (2.1%)	772 (100.0%)

表1(2) 回答者属性(居住地)

土佐清水市内	43	(5.6%)
高知県内	206	(26.7%)
県外	509	(65.9%)
無回答	14	(1.8%)
計	772	(100.0%)

注)四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。



アンケート置き状況
(足摺海洋館)

(2) 今回の来訪地およびこれまでに行ったことのある場所

幡多地域内における今回の来訪地とこれまでに行ったことのある場所について聞きました(図1)。

今回の来訪地としては、「足摺岬灯台」が64.9%と最も高く、次いで「四万十川」53.6%、「竜串海岸」53.1%の順でした。

また、これまでに行ったことのある場所として高い割合を示したのは、今回の来訪地と同じであり、それぞれ68.8%、67.5%、64.4%でした。

幡多地域の観光地としては、この3カ所を訪れる割合が高いものといえましょう。

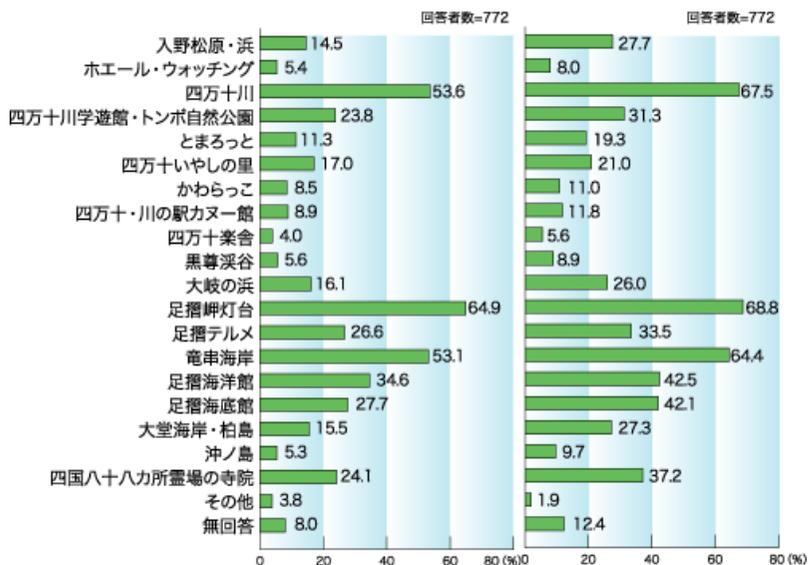


図1 今回の来訪地(左)およびこれまでに行ったことのある場所(右)
(複数回答)



足摺岬



四万十川



竜串海岸

(3) 今回来訪の形態および幡多地域内での滞在期間

今回の来訪の形態と幡多地域内での滞在期間について聞いてみました(図2)。来訪の形態としては、「家族で来た」が39.9%と最も高く、次いで「グループで来た」が31.3%でした。

また、幡多地域内での滞在期間は、「1泊2日」が46.5%と高く、次いで「日帰り」が31.5%でした。両者をあわせると、約8割の人が1泊以下であり、幡多地域に滞在する期間はそれほど長くないものといえます。

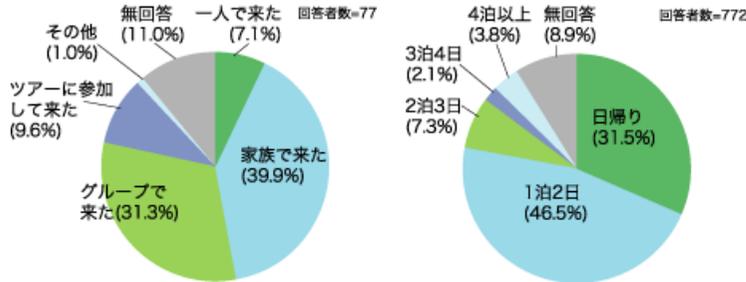


図2 来訪の形態(左)および幡多地域内での滞在期間(右)

(4) 竜串への来訪経験の有無および来訪回数

竜串への来訪経験の有無および来訪回数については(図3)、「竜串に行ったことがある、または今回行く予定」と回答した人は84.6%を占めていました。また、来訪回数は、初めて竜串を訪れるという人が47.0%と半数近くを占めていました。その一方で、「4回以上」来訪している人も27.1%と比較的高く、リピーター層も定着していることがうかがえます。

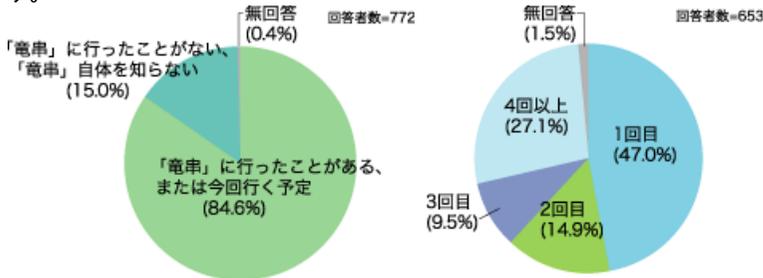


図3 竜串への来訪経験の有無(左)および来訪回数(右)

(5) 竜串を訪れたおもな目的

竜串を訪れた目的は(図4)、「名勝・史跡などの見物」が最も高く43.5%でした。次いで「自然観察・体験学習」が22.8%となっています。この2つの項目以外のものは分散しており、来訪目的としては竜串の自然を中心とした見学や体験活動などが中心になっているものといえます。



見残しの化石遺痕
県の天然記念物に指定されている
名勝地である

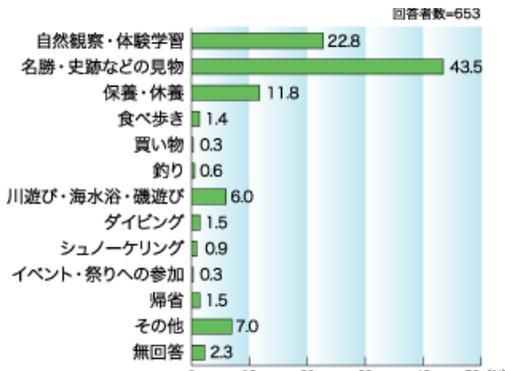


図4 竜串への来訪目的(複数回答)



「竜串」における自然観察の手段・
(グラスボートによるサンゴ群の見学)



「竜串」における自然観察の手段・
(足摺海底館の海中展望塔)

(6) 竜串の魅力

竜串の魅力について聞いたところ(図5)、「奇岩や変化のある地形が面白いこと」が圧倒的に高く、75.7%の人がこの項目を挙げました。次いで「海の透明度が高いこと」(46.1%)、「サンゴ群が美しいこと」(38.4%)と続いています。この結果から、やはり竜串の魅力は海を中心とした地域資源にあることがわかります。

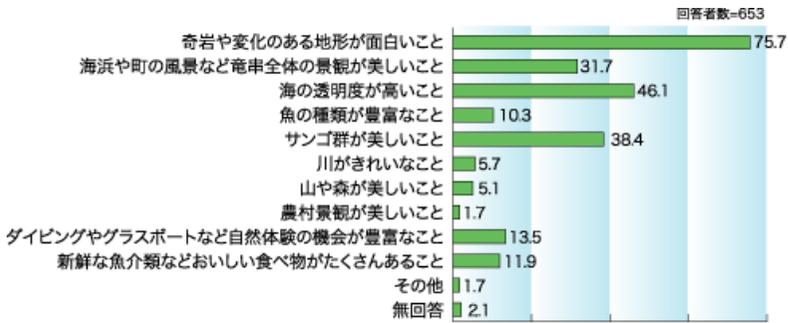


図5 竜串の魅力(複数回答)

(7) やってみたい(楽しかった)自然体験活動

竜串でやってみたい、あるいは楽しかった自然体験活動については(図6)、来訪経験者・未経験者ともに「グラスボート(船でサンゴ群を観る)」が最も高く、ともに40%を超えました。

やってみたい(楽しかった)自然体験活動については、以下、来訪の経験を問わず「海岸沿いの遊歩道の散歩」、「自然鑑賞施設(博物館・水族館・海中展望塔など)の見学」が高く30%を超えています。

このように、来訪経験者と未経験者の間にやってみたい(楽しかった)自然体験活動に大きな違いは認められませんが、そのなかで、グラスボートは未経験者に比べて来訪経験者の方が7.4ポイント、また、「かつおのタタキづくり体験」は同様に4.3ポイント高く、期待以上の体験活動になっていることがこの結果からうかがえます。

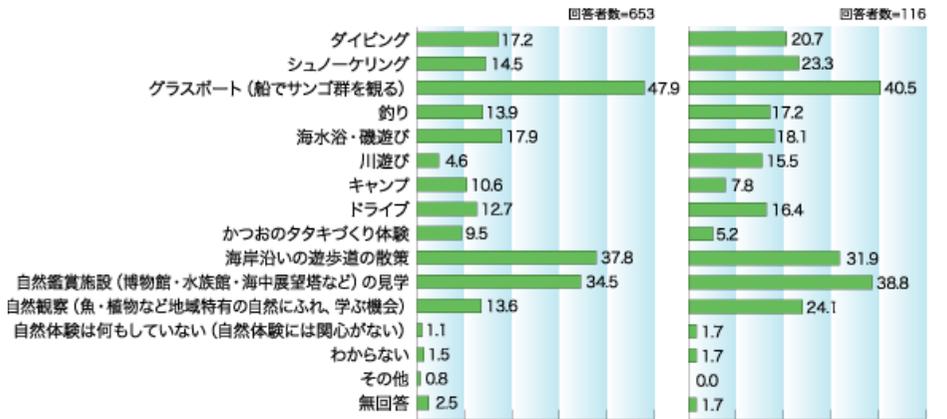


図6 やってみたい(楽しかった)活動(左・来訪経験者/右・来訪未経験者)
(複数回答)

(8) 竜串の「良かったところ」および「悪かったところ」

竜串に対する来訪者の率直な意見を抽出する目的で、具体的に「良かったところ」と「悪かったところ」を聞いてみました(図7)。

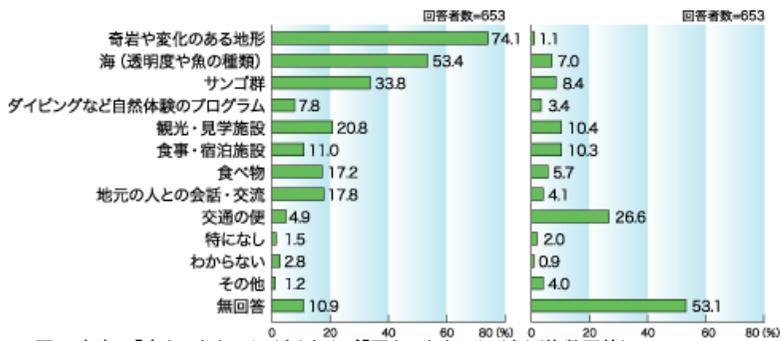


図7 竜串の「良かったところ」(左)および「悪かったところ」(右) (複数回答)

良かったところとしては、「奇岩や変化のある地形」が最も高く、74.1%の人がこの項目を選択しました。次いで「海(透明度や魚の種類)」(53.4%)、「サンゴ群」(33.8%)と続いています。この結果は、(6)竜串の魅力と同様となっています。また、「観光・見学施設」(20.8%)、「地元の人との会話・交流」(17.8%)、「食べ物」(17.2%)といった項目も比較的高く、海を中心とした資源に加えて、関連する食べ物や地域の人たちとの交流に、来訪者は好印象を持っていることがうかがえます。

一方、竜串の悪かったところについては、「交通の便」が26.6%と最も高く、観光地としての地理的な悪条件をそのまま表した結果となりました。ただし、この設問に対しては、「無回答」が圧倒的に高く(53.1%)、来訪者は、竜串において悪いと感じることはそれほどなかったともいえます。その中で「観光・見学施設」、「食事・宿泊施設」がそれぞれ10%を超えていたことに関しては、その内容を踏まえ、地域の今後の課題として、それぞれに該当する主体に検討や対策を促していく必要があります。



奇岩や変化のある地形(竜串海岸)



サンゴ群(ミドリイシ科)

(9) 今後竜串の利用をより良いものとするために必要な取り組み

今後竜串の利用をより良いものとするために必要な取り組みについて聞いてみると(図8)、「サンゴ群や竜串の自然景観など、地域固有の資源を維持管理する活動」が圧倒的に高く、61.7%でした。この結果から、竜串においてはその資源としての自然を守り活かすことが重要であると考えられることがわかります。

それ以外の取り組みとしては、「わかりやすいパンフレット・広報誌、ホームページなどの作成」(28.2%)、「観光・見学施設の改善や整備(トイレ・駐車場、キャンプ場の炊事場など)」(26.5%)が比較的高い結果を示しています。このことから、広報・宣伝活動の重要性および観光地としての基本的なハード整備が求められていることがうかがえます。

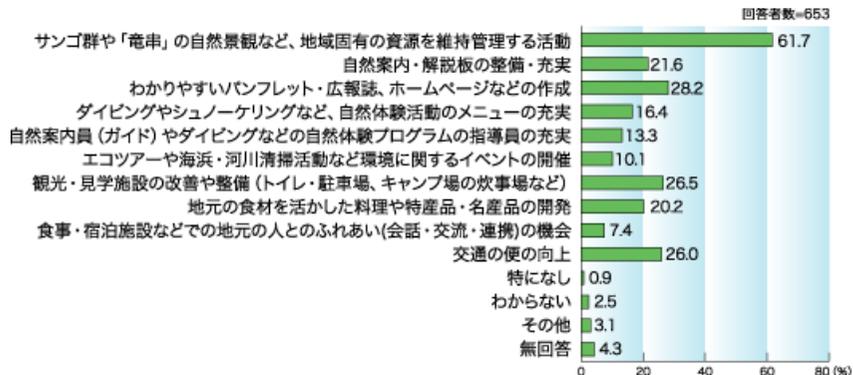


図8 今後竜串に必要な取り組み(複数回答)

(10) 竜串のサンゴ群が劣化・減少していることの認知度

竜串のサンゴ群が劣化・減少していることを知っていたかどうかを聞いてみました(図9)。

「知っている」と答えた人は、竜串への来訪経験者が41.5%、未経験者が12.9%で全体の認知度は37.2%でした。一方、「知らなかった」と答えた人は、来訪経験者が56.7%、未経験者が38.8%で、全体で知らないと回答した人は54.0%でした。

特筆すべき点としては、来訪未経験者においては「竜串自体を知らなかった」と回答した人が48.3%を占め、約半数が竜串の存在を知らないという結果となりました。



衰退したサンゴ

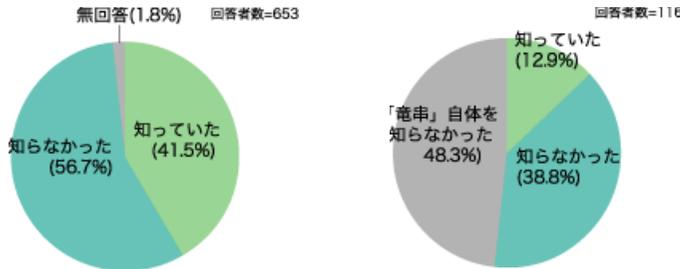


図9 サンゴ群劣化・減少の認知度(左・来訪経験者/右・来訪未経験者)

(11) サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

サンゴ群の劣化・減少を知っていた人に対して、その事実を知り得た手段についてたずねました(図10)。

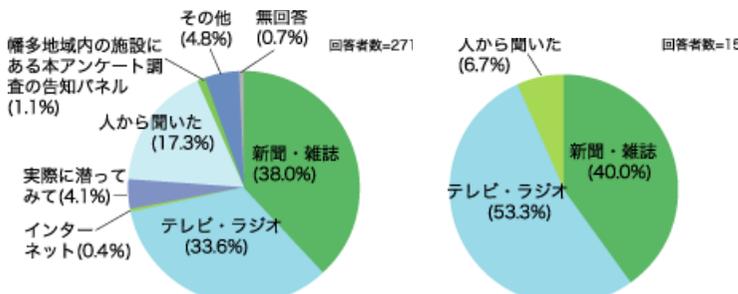


図10 サンゴ群劣化・減少の事実を知り得た手段(左・来訪経験者/右・来訪未経験者)

その結果は、来訪経験者・未経験者をあわせて、全体として知り得た手段は「新聞・雑誌」が最も高く、38.1%を占めていました。次いで「テレビ・ラジオ」が34.6%でした。この結果は、竜串のみならず、例えば沖縄でのサンゴ再生活動など、全国規模の環境問題の1つとしてサンゴ群の減少・劣化が報じられていることによると考えられます。

(12) 竜串にあつたら良いと思う自然体験活動やそのアイデア(自由回答)

竜串にあつたら良いと思う自然体験活動やそのアイデアとしては、シュノーケリング体験やエコツアーの充実、自然をガイドするボランティアの育成、地域外からの修学旅行の誘致などが挙がっていました。

(13) サンゴ再生に関する自由回答

サンゴ再生に関する自由回答として、来訪者からは以下のような声が聞かれました。



旅行雑誌をみて、
初めて竜串を知りました。
私は東京都出身で大学から高知
に来ました。それから柏島のことを知り、
足摺岬を知り、今年竜串のことを知りました。
竜串の知名度はけっこうローカルであると思
います。やはり、自然を守っていくためには、ま
ず、知ってもらうこと、知ることからはじまると思
います。なので、よりアピールをしていくこ
とが再生(サンゴ等)につながると思いま
す。私も実家に戻った際、家族に伝
えたいと思います。
(20代、女性)



ボランティアで
サンゴを守るダイビング
プランを作ること。あれば来たい!
自然は人間の手で守らなければい
けないと強く思う。自然に遊んでもらう
ことが一番楽しい。同じようなことを考え
ている人は多いはず!ボランティアを広く
募れば必ず多くの人たちが集まってく
れると思います!頑張ってください!
伝えることがあれば幸いです!
(20代、男性)



各地で募金
等して下さい(四国
全域で)。何もお役に立
てませんが、わずかながら、
再生に向け、資金援助くらい
はできると思っています。
(30代、女性)



土砂の流入
＝山林の管理の問
題だと思います。山の整備
が海岸線の自然を守る近道に
思われます。最近、「海守」の制
度も始まっています。山を愛する
人に「山守」をお願いしてはい
かがでしょうか?
(40代、男性)

自由回答で出された意見を全体的に見てみると、以下の3つの意見にまとめられます。

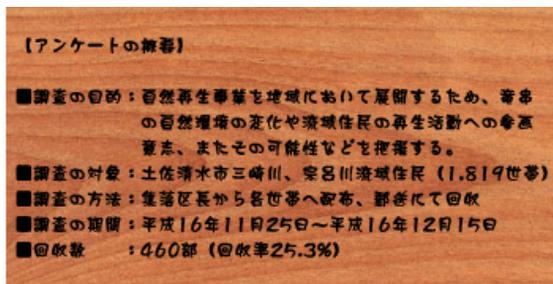
- ・周辺の森－川－海のつながりに目を向け、森林管理が急務と指摘する意見。
- ・竜串の知名度を上げることと並行してサンゴ再生を訴える必要があるという意見。
- ・活動への参画の具体的手法に関する意見(ボランティアダイバー制度を設けてはどうか という意見や募金を募るといった提案など)。

これら皆様からいただいた意見は、今度の竜串自然再生計画の作成において役立てていきたいと思っております。

2 土の人(地元住民)が見た「竜串」(地元住民アンケート調査結果)

竜串に生活している土の人(地元住民)。彼らは地元「竜串」の自然(サンゴ)をどのように見ているのでしょうか。

土の人の意識を把握するため、アンケート調査を実施しました。



土の人の声を聞く
(地元住民アンケート調査結果)



アンケート調査表を見る



アンケート調査結果を見る



地元住民アンケート調査結果

(1) 回答者属性

アンケート回答者の属性を表1(1)・(2)および図1に示します。

表1(1) 回答者属性(年齢・性別)

	年代								計
	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	
男性	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (2.6%)	21 (9.1%)	41 (17.7%)	71 (30.7%)	92 (39.8%)	0 (0.0%)	231 (100.0%)
女性	1 (0.5%)	4 (1.8%)	14 (6.3%)	28 (12.7%)	36 (16.3%)	54 (24.4%)	84 (38.0%)	0 (0.0%)	221 (100.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (37.5%)	5 (62.5%)	8 (100.0%)
計	1 (0.2%)	4 (0.9%)	20 (4.3%)	49 (10.7%)	77 (16.7%)	125 (27.2%)	179 (38.9%)	5 (1.1%)	460 (100.0%)



「竜串」の主要な産業の1つ、農業

表1(2) 回答者属性(職業)

農業	64	(13.9%)
林業	6	(1.3%)
漁業	20	(4.3%)
会社員	34	(7.4%)
自営業	39	(8.5%)
公務員	23	(5.0%)
パート・アルバイト	20	(4.3%)
学生	0	(0.0%)
主婦	71	(15.4%)
無職	156	(33.9%)
その他	15	(3.3%)
無回答	12	(2.6%)
計	460	(100.0%)

注)四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。

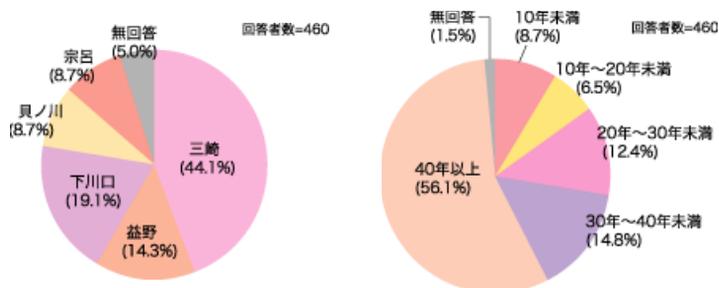


図1 回答者の居住地および居住年数

(2) 日常的に参加している共同作業やボランティア

地域住民が、日常的に参加している共同作業やボランティアの内容を聞いてみました(図2)。

「地元の会合や寄り合い」が最も高く、58.0%でした。次いで、「近くの道路や公園、河川などの掃除」が45.0%、「地元の祭りやイベントの運営」が27.4%と続いています。「特に何も参加していない」という回答が20.0%あったものの、約8割の住民が何らかのかたちで地域のために活動しており、その意識は高いことがうかがえます。

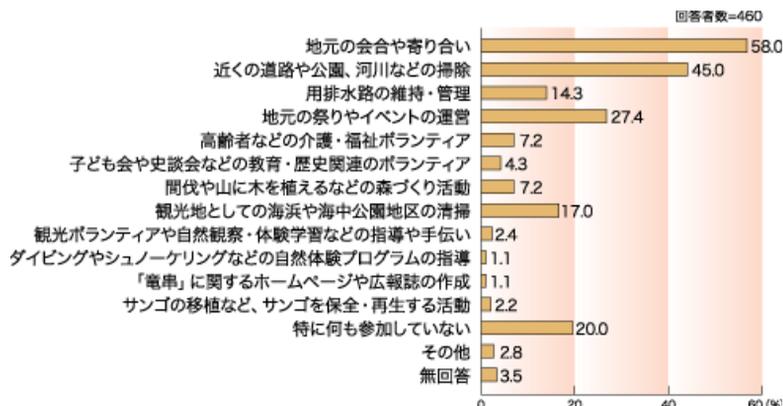


図2 日常的に参加している共同作業やボランティア (複数回答)

(3)「竜串」の魅力

地元住民はどのような点を竜串の魅力と考えているのでしょうか(図3)。

アンケートの結果からは、「奇岩や変化のある地形が面白いこと」が最も高く、およそ8割の住民がこの項目を挙げています。次いで、「サング群が美しいこと」(36.5%)、「海浜や町の風景など竜串全体の景観が美しいこと」(35.4%)、「海の透明度が高いこと」(31.3%)が30%を超えています。また、「新鮮な魚介類などおいしい食べ物がたくさんあること」も26.3%と比較的高く、総じて海の景観やそれによって育まれる素材が地域の魅力として捉えられていることがわかります。

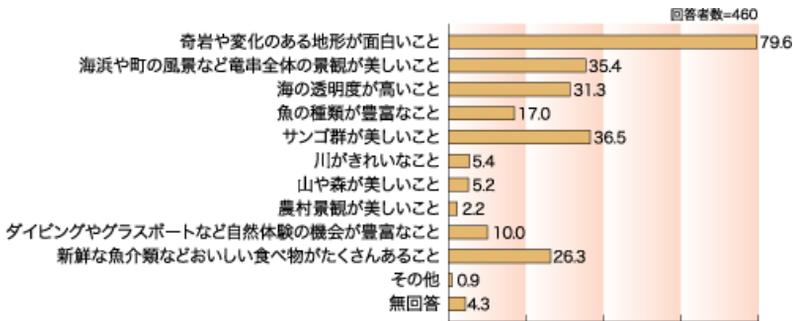


図3 「電串」の魅力(複数回答)

(4)「電串」で昔と比べて変化したところ

電串で昔と比べて変化したところについては(図4)、「耕作放棄地がふえた」、「海がにごった」がそれぞれ43.0%、41.7%と高い割合を示しています。次いで、「川がよごれた」(35.0%)、「魚の種類や量がへった」(33.3%)、「山や森が荒れた」(32.4%)、「川の水がへった」(31.7%)といった回答が多くなっています。

一方、例えば「海の透明度が上がった」、「川がきれいになった」といった良い方向への変化を感じている回答は全て3%に満たず、全体的に悪い方向へ変わったことが認識されていることが明らかとなりました。

その他の回答としては、「海藻類が激減した」、「浜辺(桜浜)の砂がへった」といったように、やはり悪い方向への変化を感じさせる回答が見られました。

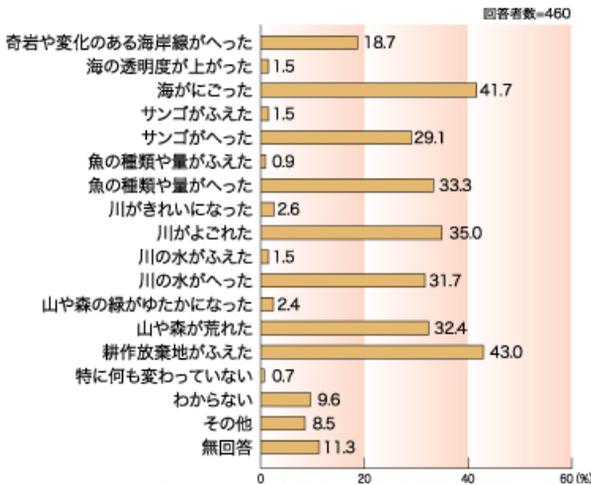


図4 「電串」で昔と比べて変化したところ(複数回答)



河川からの濁水の流入によりにごった海



耕作放棄地

(5)悪い方向へ変わった年代

先ほどの設問への回答に基づいて、特に悪い方向へ変わった項目に注目し、その年代について整理しました(図5)。

その項目は、以下の6項目です。

- a. 耕作放棄地がふえた
- b. 海がにごった
- c. 川がよごれた
- d. 魚の種類や量がへった
- e. 山や森が荒れた
- f. 川の水がへった
- g. サンゴがへった

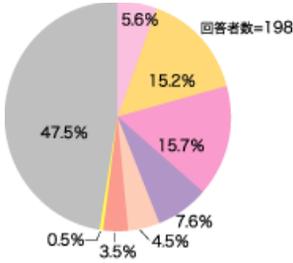
その結果、全ての項目において無回答が40%前後あるものの、全体的には「1～5年(西南豪雨)」、「6～10年」、「11～20年」をあわせた20年以下の回答が30%以上を占めていました。

特徴的なものとしては、「海がにごった」、「川がよごれた」という項目について、双方とも「1～5年(西南豪雨)」が最も多く選択されており、それぞれ24.0%、17.4%でした。この結果は、西南豪雨による土砂の流出が川と海に直接的に影響していることを感じさせるものといえます。

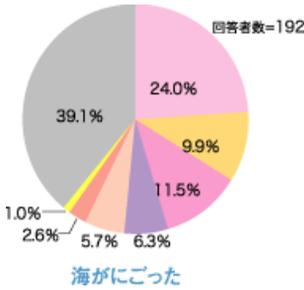
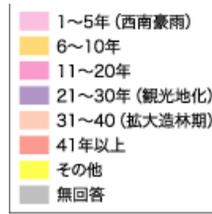
一方で、「サンゴがへった」という項目については、「6～10年」が17.2%と最も高く、西南豪雨以前からサンゴの衰退を意識した地元住民が多かったことがうかがえます。



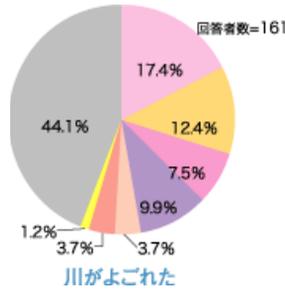
西南豪雨災害の爪痕(崩壊跡地)



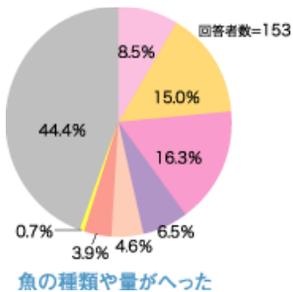
耕作放棄地がふえた



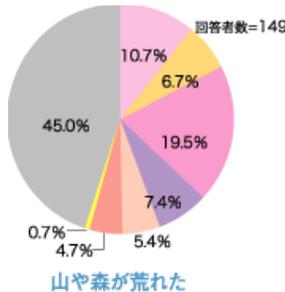
海がにごった



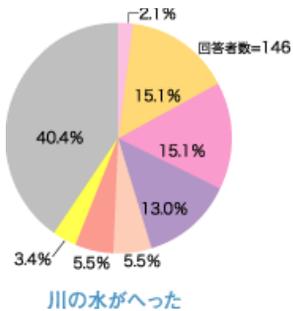
川がよごれた



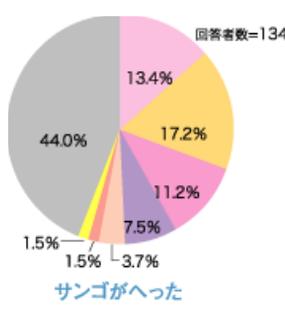
魚の種類や量がへった



山や森が荒れた



川の水がへった



サンゴがへった

図5 悪い方向に変化した年代

(6) どうすれば「竜串」はさらに魅力的になるか

どのような取り組みを進めれば竜串はさらに魅力的になるかについては(図6)、「サンゴ群や景観など、地域の資源を守る活動をさかんにする」が最も高く、48.3%の回答を得ました。次いで、「交通の便を向上させる」が38.0%でした。以下、「地元の食材を活かした料理や特産品・名産品を開発する」(23.0%)「自然体験活動や海浜・河川清掃活動など環境に関するイベントを開催する」(22.8%)と続きました。

4割弱の住民が交通の便の向上という基盤整備に係る取り組みが地域の魅力向上につながると考えてはいるものの、それ以外の回答からは、多くの人たちが自然資源を守る活動をさかんにし、かつその資源を活かしていくアイデアが重要と考えていることがわかります。

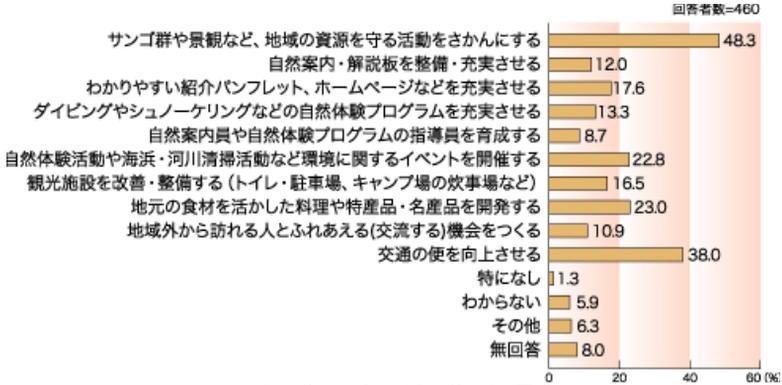
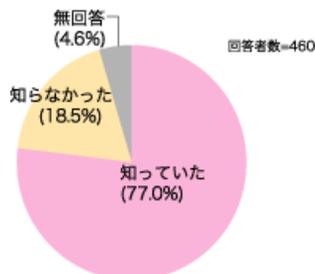


図6 竜串を魅力的にさせる方策(複数回答)

(7)「竜串」のサンゴ群が劣化・減少していることの認知度

竜串のサンゴ群が劣化・減少していることを知っていたかについては(図7)、「知っていた」と回答した住民が77.0%と「知らなかった」(18.5%)を大きく上回っており、その認知度は高いようです。



衰退したサンゴ

図7 竜串のサンゴが劣化・減少していることの認知度

(8) サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

サンゴ群の劣化・減少を知っていた住民に対し、その事実を知り得た手段についてたずねました(図8)。

知り得た手段としては「人から聞いた」が最も高く、39.0%でした。次いで「テレビ・ラジオ」が20.1%でした。

地元住民ということもあってか、「実際に潜ってみて」という回答も13.0%を占めていました。

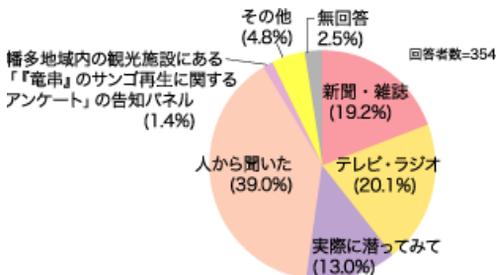


図8 サンゴ群の劣化・減少の事実を知り得た手段

(9)「竜串」の自然(サンゴ)再生のための活動への参画意志

竜串の自然(サンゴ)再生活動への参画意志についてたずねた設問の結果が図9です。

「積極的に参加したい」(4.1%)、「自分のできる範囲で協力したい」(60.4%)といった協力意志のある住民は、あわせて64.5%に上りました。

一方、「あまり参加したくない」(4.6%)、「参加したくない、興味がない」(2.8%)という参加を拒否する姿勢の住民はあわせてわずか7.4%にとどまり、全体的に自然再生への参加意欲は高いものといえましょう。

ただし、「わからない」という回答も15.7%あり、自然再生そのものの広報と地域住民が参加できるメニューなどを地域内に広く知らせていくことが課題として挙げられます。

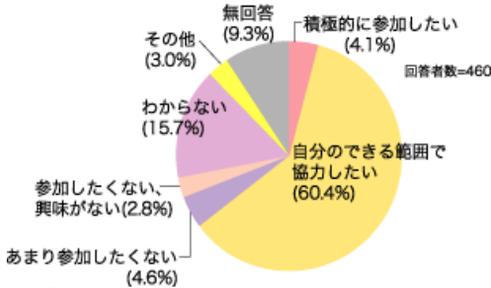


図9 自然(サンゴ)再生のための活動への参画意志

(10)「竜串」の自然(サンゴ)再生のために関わること

先の設問で、「積極的に参加したい」あるいは「自分のできる範囲で協力したい」と回答した協力意志のある住民に再生のために関わることの内容についてたずねました(図10)。

最も多かったのは、「川や海をよごさないために、家庭などから出す排水に気をつける」で、75.8%でした。次いで、「観光地としての海浜や海中公園地区の清掃活動などへの参加」が52.5%、以下、「間伐や山に木を植えるなど、上流域の森づくり活動への参加」(26.9%)、「話し合いや協議会への参加」(23.6%)と続いています。

この結果、自然再生への協力の方法として、まず日常的な生活の中で環境に配慮することを意識・実践し、また、観光地である海中公園地区の清掃等に積極的に参加する住民の意志が明らかになりました。

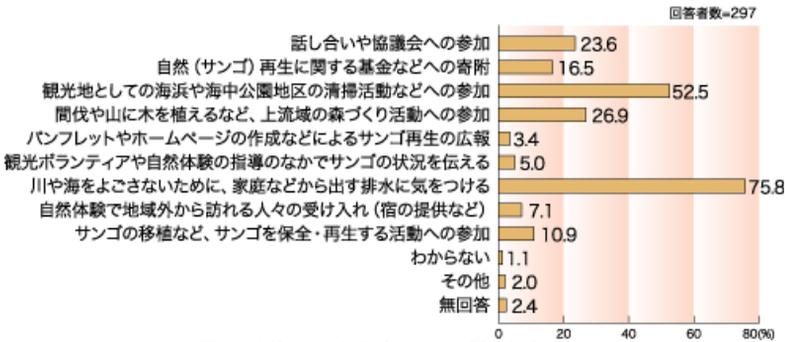


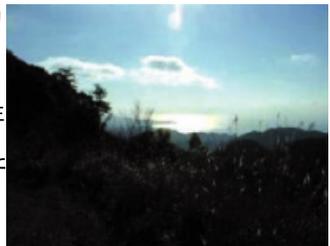
図10 自然(サンゴ)再生のために関わること

(11)「竜串」周辺で魅力的だと感じる場所

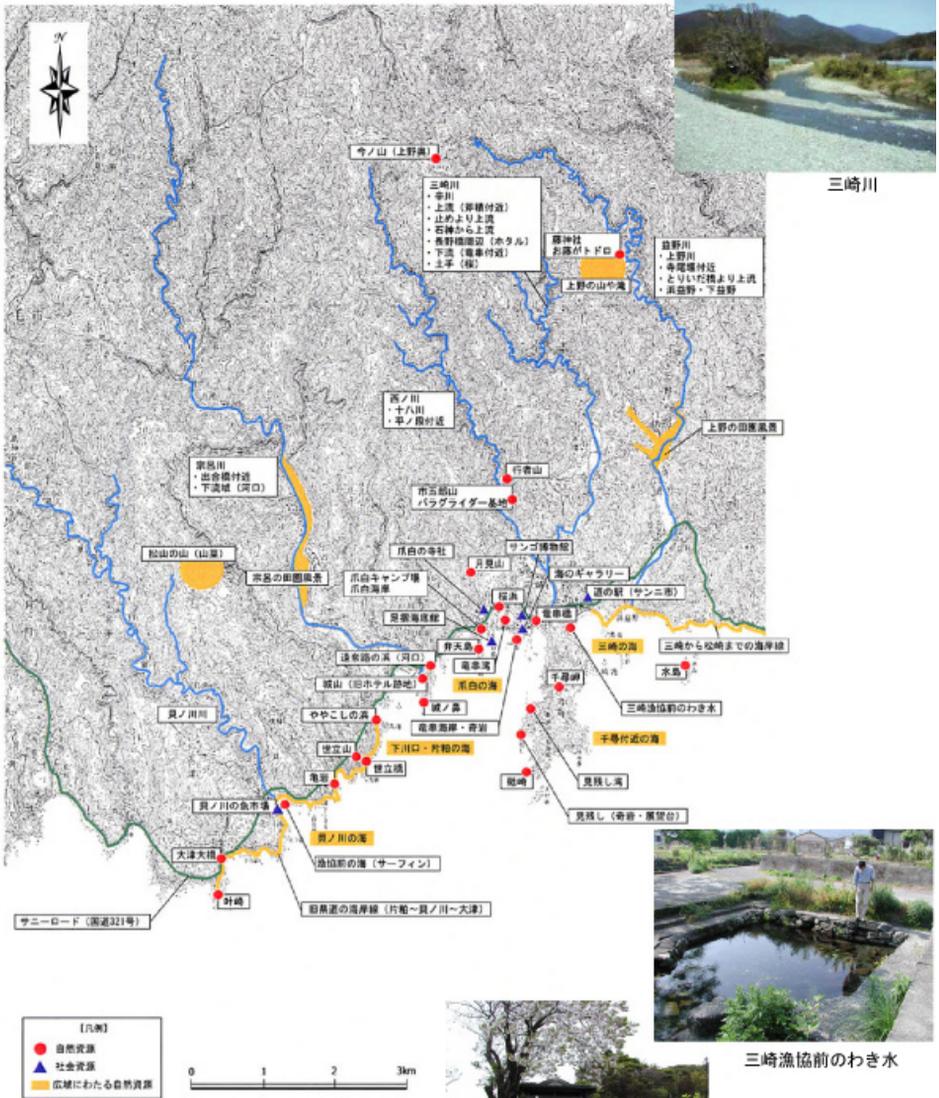
地域に住み続けた地元住民の目から見て、「竜串」周辺地域で魅力的だと感じる場所を3つまで自由に記述してもらいました。その結果を地図上に整理したものが図11です。

具体的には、一般的に知名度の高い観光地だけでなく、地元住民が日常的に接している小河川や田園風景、居住集落の前の海など住民にとって身近な場所が多く挙げられている点が特徴的です。

これらの住民にとって身近な場所(自然)には、その土地で培われた文化があります。このような身近な自然そしてその地で育まれた文化を維持、再生することも自然再生の命題の1つといえましょう。



今ノ山からの眺望



三崎川の土手の桜



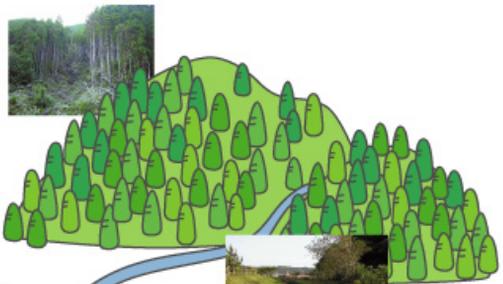
水島

(12)「竜串」についての意見(自由回答)

アンケートの最後では、「竜串」について、日ごろ気になっていることや困っていること、「竜串」をこういう地域にしたい、といったような「竜串」に関する自由な意見をお聞きしました。

具体的には、次のような意見が見られました。

山 奥の山の人工林化（ヒノキ、スギ）が進むにつれて、まず川が荒れてきました。雨が降ればすぐ濁流となり、時には洪水が起こります。日照りが少し続けば水が枯れ、当然のように川魚は姿を消しました。それが海にも影響し、群れるように泳いでいた港の小魚は完全に見られなくなりました。(70代・男性無職)



くらし 「竜串」は空気、景色、海ともにとっても良い所だと思います。ですが、残念なことに、住んでいる人たちはほとんどが50歳をすぎた人ばかりで、若者が帰ってこないかぎりこの美しい景観は失われると思います。地域に働く場所があれば、少しずつでも若い人がふえると思います。そうすれば、竜串ももっと良くなると思います。(60代・男性無職)



川 自然再生をと考える一方で、みんなの目の前を海にむけて流れている生活排水があります。また、むかしの感覚そのままに「海に流れるからよい」といいつつ、目の前の溝にゴミなどを流すお年寄りの姿も目にします。生活の土台から考え直さないと再生はありえないと思います。(40代・女性主婦)



海 むかしは磯に行くいろいろな魚がたくさん釣れたり、貝類もたくさん採れたのに、現在はまったくといっていいほど、魚が釣れなかったり、貝類もとれません。むかし通りとはいませんが、もう少し魚介類が多くなって欲しいと願っています。(50代・男性 土木作業員)

これらの意見からは、地元住民は「生活と身近な自然」の変化に関心を持っていることがわかります。これは、地域に長年生きる人だからこそ感じ取れるもの。この変化を少しでも良い方向へ変えていこうと想う気持ちが“自然再生のはじまり”であるといえましょう。

このアンケートで得られた意見は、今後の竜串の自然再生事業に反映させていく予定です。